

すくすく広場公開講演

「くらしのなかの危険～気になるものを総チェック」

講師：原 英二氏（日本消費者連盟）

令和6年 1月21日(日)
一般社団法人 すくすく広場
市民プラザかぞ

1 プロローグ

日本消費者連盟で食の安全の取り組みをしています。消費者レポートという小冊子で毎月ホットなお話を伝えています。食の安全も中心テーマですが、食の方に目が行っていますね。それと共に、暮らしの中で暮らしの安全に気遣いが無い面もあります。そんなところから、情報提供をさせていただいています。農薬の類について分かりやすくまとめたものを本日情報提供したいと考えています。

早速ですが、「家の中によからぬものがありますよ」というもの。化学物質、微生物、昆虫、電磁波、光、音などがあります。

日常生活と有害因子

いずれも気をつけていただきたいものです。本日は化学物質を中心に、食品で経口的な物、鼻から入る物、けい皮、皮膚や粘膜から入る物について見ていきましょう。皮膚からの物は侮れないです。特に、食品に関する経口の物、食品添加物です。それぞれに残留農薬安全性の評価がされています。一応、食品安全委員会、そのための機関が内閣府にあります。偏った評価をしているわけです。人間に食べさせて実験はできません。工場でたくさん摂取していて病気になる場合は分かりますが、動物実験で安全な量、一日許容摂取量 ADI を見極めていきます。

化学物質の安全性

どのような物質でもたくさん取ると危険、水もそうです。アメリカでのがぶ飲み大会、一度に7リットルの水を飲んだ人が亡くなりました。食塩水でも、塩一日10グラム以上は高血圧を引き起こします。慢性毒性があります。動物実験で一度に食べさせて死ぬ量を測ります。慢性毒性の試験をします。無毒性量が出て安全係数をかけて、1/100。人間と動物の差や個体差ですが、科学的根拠はないのです。マウスとラット似ている所も違うところもあります。この二種に現れない毒性が、人に毒性が現れることもあるのです。係数は関係ありません。科学的に根拠のない係数。ADI、マウスとラット同士は近いが、食品安全委員会が評価したものを厚生省は安全であるかのように扱っています。下回っているから安全とは言えない。

こういう評価を得ていないものが多数あります。

化学物質の規制

食品添加物や農薬は使っているものは決まっています。安全性の評価です。ところが、家庭で使うものは、『使っていけないもの』が決まっています。まさに後追いです。この結果、アスベストの消費量の推移で、使用後十年を過ぎて、肺がんが増えていきました。アスベストは、静かな時限爆弾と言われています。耐熱性や断熱性では便利で役に立つものでした。1900年代、有害性があるということは分かっていたにもかかわらず、先進国で大量に使われました。少量の石綿でもがんになることが分かりました。欧米では1970年代に規制をかけました。ところが、日本は規制をせず、かえって消費が増えていきました。欧米で規制、それが日本に持ち込まれるという構図です。同じようなことが日本から途上国に規制農薬で輸出されています。先進国の責任です。2000年以降も日本は使っていました。吹付アスベスト、トムレックスを使っていましたが、2012年に全面規制になりました。

肺がんは石綿(アスベスト)だけが原因ではありませんが、異常な勢いで増えています。いつまで増え続けるか分からない。古い建物にはまだ使われています。スレートとか、色々なところに使われています。能登で地震があったり、建物が壊れていたところに飛び散ることもあります。ビル解体時には気をつけてください。対応が遅れると被害が出ます。とにかく怪しいものは使わないことです。

「予防原則」ヨーロッパでは化学物質についてもメーカーに規制が厳しいです。日本では予防原則をとりません。新しい食品について、評価することは難しいが、厚労省規制を行わないのです。生活用品については期待できません。

シックハウス症候群について、化学物質で神経ホルモンに異常をきたしますが、ごくごく微量の化学物質にも反応するようになります。化学物質過敏症。香害 香料によって反応する。通勤途上の電車やバス、子どもが学校で香りをつけて帰ってきても害になります。化学物質過敏症 100 人に一人といわれています。

煙草には害があることを日本では軽く扱われています。洗剤工業会が強いので、規制を国はためらっています。皆さんの清潔志向、外国企業にマネして、香りの強いものが増えています。一部の人に害が出てきているように見えるが、いつ自分に来るか分かりません。ある日突然にそういう風になる。匂いに過敏になります。

化学物質にどう対応するか 身の回りの有害因子

フッ素は、虫歯予防で半強制的に扱われています。効果が無いという声もある一方で、毒性があります。癌の原因にもなります。防水スプレーは、有機フッ素化合物、水をはじく性質の物です。有機フッ素 PFAS 環境中でほとんど分解しません。事故が無くても、米軍基地の訓練で、有機フッ素が使用されて、地下水の汚染が起きています。分解しない。人は、水道水、魚介類を介して摂取します。汚染を調べている途中。今のうちに規制をしなければなりません。コンクリートの建物『ラドン』という放射能が有害要因になります。窓を開けて換気をすることです。空気清浄機から出るオゾンがあります。たくさん吸っていると、がんを発症します。塩ビの可塑剤は、空気を汚染しています。化粧品の中には、皮膚によくないものもあります。電磁波は電気製品から出ますが、低周波には、特に注意する必要があります。体調不良に陥ります。

農薬を中心に話します。農薬というものは、農の薬で、野菜のサプリメント?・・・全然違います。

殺虫剤、殺菌剤、除草剤の共通性、虫菌草、生物を殺す薬です。欧米では、殺生物剤と表示されます。メーカーは安全といいますが、「じゃあ飲んでみろ」と言ったら、飲まなかった(当然ですが)。安全な農薬はありません。体の中に取り入れるのに気をつけなければなりません。

主な農薬の種類 化学構造による主な農薬の分類

DDT を終戦直後に頭に掛けていました。生態系に害があるということで塩素系の農薬に規制がかけられました。有機リン系は今でもたくさん使われています。ネオニコチノイド系はニコチンに似せて作られた、神経毒性があります。浸透性がたいへん強いです。一回播くと残っていて、昆虫を殺します。有機農産物 特別栽培というのをご存じですか。特別栽培にネオニコが多く使われています。アミノ酸系の名前でも非常に毒性が強いです。

家庭で使用される農薬類と代替法

園芸用の農薬については、防虫剤 殺虫剤 パラジクロロベンゼン。トイレボールでツーンと匂いのするものです。抗菌防臭加工剤、うがい薬や手洗い薬は、扱いによっては 100 害あって一利なしにもなります。抗菌加工済みというものもありますが。表面が汚れていては効果はありません。抗菌加工剤が、経皮吸収しなければ効果が無いし、吸収しても害があるものです。うがい薬は粘膜から吸収しやすいです。代替は水でよい。せいぜいお茶がいいです。常在菌を健康に保つ。体の免疫力を保つ。抗菌加工でないものを探すのが大変な時代。製品選びが大変になります。

除草剤に頼らない雑草防除

抗菌剤の問題点

抗菌剤の種類

健康被害病院モニター報告から

特に心配なのが子供の変化、「発達障害」三種類あるが、非常な勢いで増えています。このまま増え続けると社会的に問題になります。先天的、遺伝的でない胎児のときに生まれるまでの間の影響。脳の発達神経繊維の結合が脳で、神経細胞から神経細胞への化学物質の神経伝達を阻害します。神経発達時に阻害する物質ではないかと、専門家が指摘しています。農薬 有機リン系、ピレスロイド系、使用は減って

います。ネオニコチノイド系の農薬や神経性の浸透性のある農薬が洗剤の香りのカプセルのように増えています。

増加する発達障害

農薬の出荷量の推移。ネオニコチノイド系類似殺虫剤の出荷量増えています。農薬全体が減る中でネオニコが増えています。同時に、発達障害が増えています。グリホサートの発がん性は、悪性リンパ腫を引き起こします。増加と出荷の量が相関を示しています。直接的な証拠にはありませんが……。

悪性リンパ腫罹患者とグリホサート出荷量

道路際や公園、校庭の、枯らしてきれいにするところに使われています。アメリカ、カナダは全部枯らしてタネを取る手法を取ります。実りをよくするためです。グリホサートが使われています。

化学物質にどう対応するか、(本当に必要か)

放射線防護の三原則

放射線使用の推進派が決めたことです。利用する前提で決めたわけです。人に害なことは分かっています。医療放射線は肺がんが早期に見つかれば、リスクを上回る効果があったと。理科の授業で、エックス線で骨の観察をさせる授業で、先生が癌になったことがありました。必要が無いところでは使わないことです。抗菌加工など最たるもの。もし使わなければいけなくても、必要最小限で使うことが原則です。化学物質を使わなくてもできる対策、網戸とか、ハエとりリボンとかです。粘着式のゴキブリ取りもそうです。線量限度を超えないように、結果的にたくさん使ってははいけません。自分で考えて使ってください。空気はどれくらい吸っているか知っていますか。15 立方メートル吸っています。成人 1 日です。肺からは、酸素だけでなく汚染されたものも吸っています。

できるだけ窓を開けて換気をする。外の空気の方がきれいです。シックハウス症候群で観葉植物。化学物質に強い体を作るためには、規則正しい生活をすることです。日本型食事、米は、免疫力が強くなります。特別栽培の食品より、有機農産物を選びましょう。この地域を見たところ、農地もたくさん残っています。そんな食生活を送ってください。

文責 山口